



養育院附属病院から 健康長寿医療センターへ

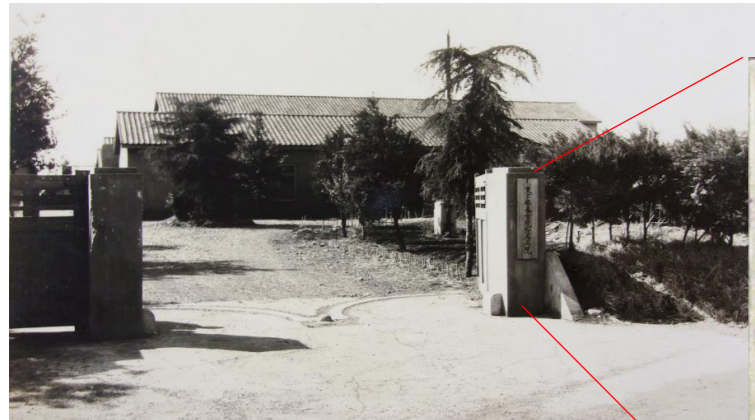
宮本孝一 老年学情報センター

櫻園通信 76 令和4年3月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先: 老年学情報センター

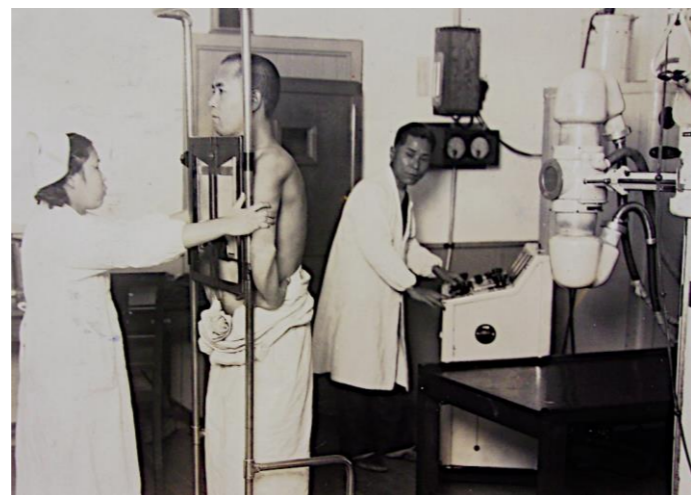
まず板橋分院（現在の東京都健康長寿医療センター）から東武東上線を挟んだ向こう側（に隣接した旧軍施設の寮の借用を申請しましたがすでに他の利用が決まっていたため、次に板橋町四丁目の旧陸軍第一造兵廠（兵器工場）工員寮「大山宿舎」の使用を申請しました。その結果、大山宿舎の一角にある至誠寮の借用が許可され、翌昭和二一年には、大山宿舎生徒舎の一部も使用が認められました。

旧軍施設の寮で始まった病院
板橋の養育院本院は一九四五（昭和二〇）年四月の大空襲で火の海となり、大半の建物を焼失しました。終戦直後は焼け残った育児室を養育院の事務所として使い始めました。しかし元のように建物を再建できる社会状況ではありません。
一方、東京は戦災の被災者や浮浪者であふれています。養育院の児童も疎開先から引き揚げてきます。そこで軍用施設の借用が検討されました。

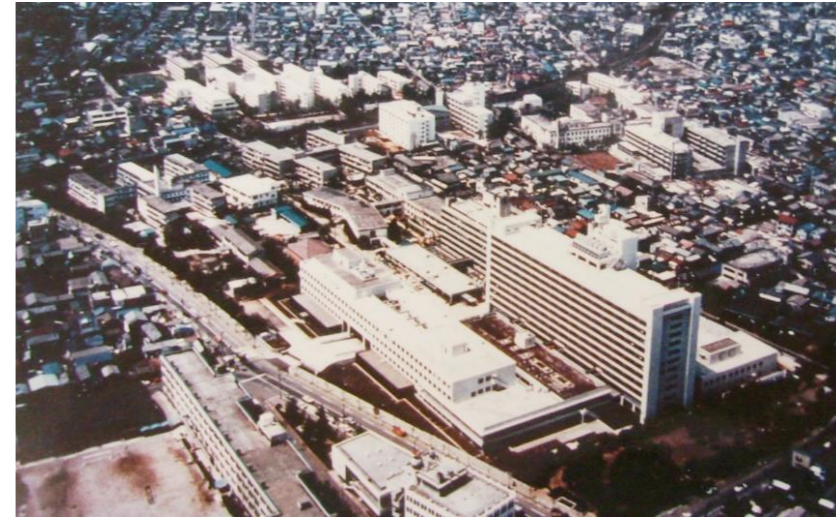
一九四六（昭和二一）年六月、至誠寮は養育院附属病院と名付けられました。養育収容者に限らず診療を開始しました。病院は建物が狭く、病院機能を十分に発揮できないため、一九四八（昭和二三）年にかけてレントゲン室や受電設備、看護婦寄宿舎などが作られました。



大山宿舎の門に掲げられた附属病院の看板（東京都健康長寿医療センター所蔵）



附属病院（東京都健康長寿医療センター所蔵）



板橋構内（東京都健康長寿医療センター所蔵）

養育院の敷地には、高齢者専門病院・老人総合研究所・昭和三〇年代に始まる老人ホーム・一九七六（昭和五〇）年には板橋ナーシングホーム新設と、高齢者の医療・福祉・研究の施設が集中して設置されました。

東京都老人医療センターの玄関（東京都老人医療センター36年の軌跡付録CD収録）



附属病院は、第二代病院長豊倉康夫の「国際的に通用する病院名に」という意向で、一九八六（昭和六一）年に**東京都老人医療センター**に改称されました。



外来の待合席（東京都健康長寿医療センター所蔵）



国際老年学会 昭和51年（東京都老人医療センター36年の軌跡付録CD収録）

現在の東京都健康長寿医療センター



二〇〇九（平成二一）年、東京都老人医療センターと東京都老人総合研究所は経営統合して、**地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター**が発足しました。二〇一三（平成二五）年、新しい建物が完成し、旧医療センター・研究所の建物から引っ越しが行われました。六月には外来診療が開始されました。



老人医療センターの外観（東京都老人医療センター36年の軌跡付録CD収録）

養育院附属病院開院の少し前、三月には養育院事務室が育児室から陸軍第一造兵廠の生徒舎に移りました。

一九四六（昭和二一）年は一年間の入所者が約一万一四〇〇人に達し、養育院史上最多となりました。一方、同年の出所者は二六〇〇人、無断出所六七〇〇人、院内での死亡者二〇七〇人です。つまり養育院から出た人（+亡くなった人）は入所者数とほぼ同数です。一年の間に大量の人が入退所していた異常な状況がこのことからわかります。

昭和二十一年以降も旧軍施設の獲得をめぐず動きは続けられ、視察や交渉が行われた施設は三十数か所に及びました。

二階建ての附属病院を新築

工員寮を使った附属病院開院から十年、一九五六（昭和三一）年に建物の老朽化と火災防止上の問題から本院敷地内に養育院在院者のための新病院を立てることが決まりました。一九五八（昭和三三）年の三月に新病院と看護婦寄宿舎が完成し、四月より診療が始まりました。



板橋構内 昭和39年（東京都健康長寿医療センター所蔵）

都内の高齢者のための病院

一九六七（昭和四二）年、都知事は養育院に、都内の老人医療状況を調査するよう指示しました。

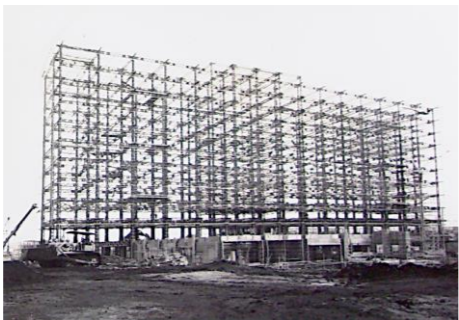
老人病院の建設が必要という考えであった附属病院長は「東京都内老人の医療現状と対策」という報告書をまとめ、養育院院長を通して知事に提出しました。



本院敷地に建てられた附属病院（東京都健康長寿医療センター所蔵）



一九六九（昭和四四）年、東京都知事は老人病院問題懇談会という場で、老人病院・研究所・リハビリ施設などを併せた施設の設置という考えを出しました。新病院の具体的な計画は翌年から始まりました。



附属病院の建設（東京都健康長寿医療センター所蔵）

一九七二（昭和四七）年、新しい養育院附属病院と老人総合研究所、リハビリセターが完成しました。養育院附属病院は養育院の在院者専用ではなく、都内の高齢者を対象とする病院になりました。この年には、養育院創立百周年の記念式典が開催され、当時の皇太子夫妻がご臨場されました。



新築の付属病院（東京都健康長寿医療センター所蔵）



創立100周年記念式典（東京都健康長寿医療センター所蔵）

病院開設時は、内科、外科、小児科、眼科、歯科、産婦人科、耳鼻咽喉科、放射線科、薬剤科、看護科があり、医師は二〇名、看護師は九八名でした。外部からは精神科や皮膚科の専門医も定期的に来て診療にあたりました。板橋分院構内には一九五八年に看護婦寄宿舎ができて至誠寮の寄宿舎から移りました。同年には養育院附属看護学院の教室も作られています。

